

「製品認証取得の会員紹介」⑤

ヤンマー建機株式会社・本社工場

世界的なエンジンメーカーであるヤンマーグループの中で、建機事業を担っているのがヤンマー建機株式会社(福岡県筑後市、小林文博社長)である。

2004年(平成16年)に、ミニショベルの生産工場であったセイレイ工業株式会社福岡工場とヤンマー株式会社の建機事業部門を分離統合して、小型建設機械・汎用商品の開発から生産・販売まで一体となる自己完結型製造体制の構築を行い、「ヤンマー建機株式会社」となった。

ミニショベル、キャリア(不整地運搬車)、ホイールローダーなどの小型建設機械、また、可搬形発電設備、ガソリン・空冷ディーゼル発電機などの汎用商品のパイオニアであるヤンマー建機は、1914年(大正3年)に創業した。

創業当初は水郷の町として知られる福岡県柳川市に本社を置き、農業機械専門メーカーとして、脱穀機の製造・販売を手掛けていた。現在では、国内はもとより海外ユーザー向けにも低燃費で低騒音といった経済性、環境対応に優れた小型建設機械を供給している。

ヤンマー建機は2006年(平成18年)6月27日付けで、本社事務棟に隣接する本社工場(可搬形発電設備)において、内発協の製品認証を取得した。同社の創業の経緯、今後の商品開発への取り組みについて紹介する。



ヤンマー建機の可搬形発電設備

【創業の経緯】

ヤンマー建機株式会社は、竹下儀一郎氏が1914年(大正3年)に福岡県柳川市有明町に設立した「竹下鉄工所」が母体。竹下式動力脱穀機を開発した竹下鉄工所は51年(昭和26年)、「竹下鉄工株式会社」となった。農業機械開発・製造で培った技術力をいかして新たに建設機械の開発・製造にも乗り出した。日本で初めて小型建設機械を手掛け、耐久性に優れた高性能な建機を次々と開発していった。

具体的には、1965年(同40年)、日本の小形建設機械のルーツである「ハンドローダー HD5」を皮切りとして、69年(同44年)にはショベルローダ、70年(同45年)にはミニショベル、73年(同48年)にはキャリアの生産を開始した。さらに、1989年(平成元年)、スイスのアンマン社と合併でフランスにアンマンヤンマー社を設立し欧州での現地生産を開始するなど、時代のニーズに合った商品ラインアップと生産台数の拡充に努め、事業拡大へとつなげていった。1990年(同2年)には建設機械の生産累計台数が10万台を突破、1993年(同5年)には、業界で初めて後方小旋回ミニショベル「Vioシリーズ」商品化するなど、順調に業績を伸ばしていった。

【本社工場】

ヤンマー建機の本社工場は、1975年(昭和50年)の竣工以来、ミニショベルなど小型建設機械を一貫生産している。

本社工場の特徴は、内製化へのこだわりである。エンジンやトランスミッションなど重要部品は、ヤンマーグループ内から調達することと併せて、油圧シリンダや各種部品の社内内製率を高めることで需

